

首里城公園企画展 「うるしの王国 琉球」 実施結果報告

大城 樹¹

はじめに

首里城公園南殿二階特別展示室では、常時文化財を展示公開する常設展示・企画展示を行っている。今回は、「うるしの王国 琉球」という名称で、企画展を実施した。平成4年の開園以来、初めてとなる本格的な漆の塗り直しを実施中であるため、この機会に、琉球王国が首里城で儀式や儀礼で使用した調度品としての漆器や、海外に献上、輸出した高級漆器に関する連続シリーズ企画展を行い、塗り直しと併せて、琉球王国の漆工芸品の歴史や技の巧みさを首里城公園が所蔵する資料の展示を通して、多くの県民、沖縄を訪れる観光客へ伝える。また、今回の展示会の実施が、入館者にどのような反響を与えたのかを確認するため、当財団は、展示期間中に一定期間を設けアンケート調査を行った。そこで、企画展「うるしの王国 琉球」の実施結果を報告しながら、アンケート集計内容を紹介し、入館者の動向を分析し考察を行ってみたい。

1 企画展の実施概要

1) 企画展の名称：「うるしの王国 琉球」

2) 個別テーマ及び日程

第Ⅰ期 うるしの王国 琉球Ⅰ ～神に捧げたうるしのうつわ～

平成22年7月9日(金)～10月2日(土) (会期日数：86日)

第Ⅱ期 うるしの王国 琉球Ⅱ ～ごちそうを盛るうるしのうつわ～

平成22年10月3日(日)～12月17日(金) (会期日数：76日)

第Ⅲ期 うるしの王国 琉球Ⅲ ～献上された琉球楽器～

平成22年12月18日(土)～平成23年2月9日(水) (会期日数：54日)

第Ⅳ期 うるしの王国 琉球Ⅳ ～青貝の輝き～

平成23年2月10日(木)～4月22日(金) (会期日数：71日)

3) 会場：首里城公園南殿二階特別展示室

4) 期間中の入館者数：1,317,409名(うち、各会期のアンケート期間中の入館者は、第Ⅰ期：69,595名。第Ⅱ期：75,243名。第Ⅲ期：69,447名。第Ⅳ期：66,308名)

5) 個別の企画展の展示レイアウトと展示資料

本企画展では、テーマに沿った琉球王国時代の文化財の展示を行った。展示に活用した文化財の総件数は61件62点(第Ⅰ期：14件14点 第Ⅱ期：11件11点 第Ⅲ期：25件25点 第Ⅳ期：11件12点)で、公開した文化財は、全て海洋博覧会記念公園管理財団所蔵資料である。

6) 解説の補助資料

本企画展では、首里城公園有料区域に入館し、企画展を見学された方にA3見開きのカラー解説パンフレットを作成して無料配布した。配布部数は合計110,000部(第Ⅰ期：45,000部。第Ⅱ期：25,000部。第Ⅲ期：20,000部。第Ⅳ期：20,000部)であった。

*1 (財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター 事業課 調査展示係 業務補助

7) 広報の実施内容

(1) 首里城公園ホームページの活用

首里城公園のホームページに、展示内容を更新して掲載し、周知を行った。

(2) パブリシティ広告の活用

県内新聞紙・雑誌の無料掲載欄を積極的に活用し、開催の告知を行った。

(3) 告知チラシ

A4判両面カラー告知チラシを30,000部作成し、県内博物館・図書館・観光地等を中心に配付した。また、白黒告知チラシを40,000部作成し、那覇市内の小・中学校の全校生徒への配付用として、各学校へ配付した。

8) 入館者プレゼントの実施

入館者に企画展及び琉球の文化財に関心を持ってもらおうと、会場内に設置したキーワードと企画展に関するアンケートを応募用紙に記入し、会場内で応募してもらい、抽選で財団所蔵の文化財図録をプレゼントする取り組みを行った。アンケートの実施内容及び集計結果は次項を参照してほしい。

2 アンケートの実施

1) アンケートの記入方法

会場内に設置したキーワードと企画展に関するアンケートを応募用紙に記入し、会場内で応募してもらい、抽選で財団所蔵の文化財図録をプレゼントする取り組みを行った。

2) アンケートの項目

アンケートの項目は下記の通り。

〔表面〕 図録プレゼント応募用紙

①氏名 ②性別 ③住所 ④キーワード

〔裏面〕 アンケート

①年齢

0～10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

②今回の企画展をどうやって知りましたか？

ホームページ ポスター チラシ 新聞 () 情報番組・ニュース 情報紙・雑誌 ()
ラジオ (FM沖縄:「風にふかれて首里城めぐり」など) ここに来て知った その他 ()

③企画展の告知方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？

ホームページ ポスター・チラシ 新聞 情報誌・雑誌 CM(テレビ or ラジオ) その他 ()

④今回の企画展はどうでしたか？

非常におもしろかった おもしろかった 普通 おもしろくなかった

⑤次回は企画展「〇〇〇」が開催されますが…

見に行きたい 考え中 見に行かない その他 ()

⑥ご意見・ご感想

なお、プレゼントの応募用紙に記入させる方式をとったので、アンケート記入者の出身地がかなり正確に調査できた。

3 アンケート結果と分析

1) アンケート期間 (企画展開催中、一定期間でアンケートを行った。)

第Ⅰ期 平成22年8月1日(日)～8月15日(日) (日数:15日間)

第Ⅱ期 平成22年10月3日(日)～10月16日(土) (日数:14日間)

第Ⅲ期 平成22年12月18日(土)～平成23年1月4日(火) (日数:18日間)

第Ⅳ期 平成23年2月10日(木)～2月23日(水) (日数:14日間)

2) アンケート回答数

図録プレゼントに応募した件数は、期間中の合計4,010件あった。そのうち、アンケートまで記入された入館者は3,217件、プレゼント応募者の中でのアンケート回収率は80.2%であった。アンケート回答件数は、アンケート期間中(61日間)の入館者(280,593人)に占める割合でいうと1.1%であった。

3) 企画展見学者の出身地の割合

アンケートに回答した企画展見学者の出身地の割合は、県内客が8.5%、県外客が91.1%であったことから、圧倒的に県外客が多い事が分かる。

その内訳をさらに紹介すると、県内客は那覇市が3.5%で最も多い。次いで、浦添市が0.9%、沖縄市0.7%、その他の市町村は20人以下である。

県外客の内訳は、東京都が13.6%で最も多く、次いで神奈川県が9.2%、3位は大阪府の6.5%であるが、埼玉県が6.1%、千葉県が5.3%と圧倒的に関東圏が多い。

4) 年齢

0～10代の29.0%が上位を占め、次いで40代の18.5%、30代の16.2%、20代が14.5%と、ほぼ近い割合であった。50代以降の年齢層は、50代が10.8%、60代が8.1%と、こちらもほぼ近い割合であり、70代以上は2.6%と回答が少なかった。

0～10代が多い要因としては、第Ⅰ期開催中に、沖縄県がこの年、全国高等学校総合体育大会(7/28～8/20)の開催地となった影響があるものと思われる。

5) 性別

男性が38.3%、女性が61.4%であり、女性の方のアンケート応募が多かった。テーマが「うるし」という美術工芸分野であることと、抽選であるが、無料で図録をプレゼントする取り組みとしたことが、女性のアンケート応募が多かった要因の一つではないかと思われる。

6) 企画展の事前認知度

「今回の企画展を何で知りましたか？」に対して69.0%の方が「ここに来て知った」と回答している。事前にマスコミリリースや告知チラシの県内配布(県内博物館・図書館観光地・那覇市内の小・中学校等)、首里城公園ホームページでの告知を行ったが、入館者への事前周知が不十分だったようである。今回は、那覇市内の小・中学校へチラシを配布したが、来園の様子は見られず、沖縄の歴史を知ってもらう上でも、学校現場への広報方法を考える必要がある。また、事前に知っていた入館者は、ポスターが12.0%と多く、次いでホームページが6.6%、情報誌・雑誌が3.2%と、街中を歩いて目に付くポスター広告や、メディアを介した方法が良いように感じる。

「告知の方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？」に対しては、ホームページが29.5%と最も多く、次にCMとポスター・チラシが好ましいと答えており、約半数の方がメディアを通して首里城への情報を得ようとしている事を考えれば、やはり、メディアを介しての方法が有効ようだ。以下、情報誌・雑誌が16.6%、新聞が13.0%と続いている。その他に、「モノレール駅や空港のポスター」や「電車のつり革(都内だったら)」、「旅行会社とのタイアップ」、「レンタカー屋さんでの掲示」など、旅行手配先や、旅行先の移動手段先で目にする場所が挙げられた。

7) 企画展の満足度

企画展の満足度について、全体の割合では、「非常に面白かった」が38.7%、「面白かった」が52.4%と、全体で91.1%の方が満足していただいたものと思われる。どのような内容が満足を得ていたのかは、文末のご意見・ご感想報告の中に理由が書かれているので参照してほしい。

また、満足度が91.1%であったのに対し、次回も見に行きたいと回答した入館者は、全体で49.2%であった。要因として、その他の解答に「見に行きたいが、遠方のため、見に行けない」、「金銭・時間的に余裕があれば」といった内容の解答が多くみられた。そのためリピーター対策として近郊の県内客の掘り起こしを行う必要性を感じた。

8) ご意見・ご感想の記入内容

ご意見・ご感想の内容は、「琉球王朝の古くから残されたものをじかで見ること、すごく勉強になりましたし、沖縄に住む私はもっと沖縄の歴史を勉強していきたいと思いました。」(第Ⅰ期より)、「初めて知り、観る事が出来とても良かった。沖縄県民として誇りに思う。」(第Ⅲ期より)、「興味があつたので、実際に見る事ができて、とても良かったです。地元なのになかなか来る機会がなかったが、これからは足を運びたいと思っています。」(第Ⅳ期より)など、県内の方からの感想が複数見られた。この事から、首里城へ足を運んでさえていただければ、リピーターや、それだけでなく、沖縄の歴史や文化等に興味を持ってもらう事に繋がり、最終的には、首里城への興味が再度湧き、リピーターへと繋がる事になるのではと思う。また、今回から、第Ⅰ期企画展では「カミマヤア〜」(当財団所蔵「月下神猫図」をモデルとした解説キャラクター)・「ハクタクおじい」(当財団所蔵：県指定文化財「白澤之図」をモデルとした解説キャラクター)のキャラクターを使い、第Ⅱ期・第Ⅳ期では、このキャラクターに加え、3人の里之子クラスの少年の解説キャラクター(安良城里之子・板良敷里之子・小禄里之子)を使って、資料の解説や案内を行った。それについて、「説明もわかりやすく、子どもも興味をもてました。」、「キャラクターがかわいらしく説明してくれていたのが楽しく学べました。」、「夏休み中なので子どもと大人の両方にとってわかりやすい説明方法で良かった。」(以上、第Ⅰ期より)、「キャラをつかっているのが、ふつうより目をひいてよかったです。」、「歴史はあまり詳しくありませんでしたが、琉球が本土とどのように違っていたか、特色をじっくり感じる事が出来ました。うるしの展示で3人のキャラクターが分かりやすく解説していたのも見ていて楽しかったです。」(以上、第Ⅱ期より)、「可愛いキャラクターたちが説明してくれて、親しみが持てました。」、「展示品が美しいのはもちろん、解説のキャラがとつきやすくよかったです。」(以上、第Ⅳ期より)などの感想がほとんどであった。首里城という厳粛なイメージに対し、キャラクターの取り入れは、「歴史に関して理解しやすい展示でした。もえキャラが必要かどうか…」(第Ⅳ期より)と言うごく少数意見(否定的な意見は全期間通して一件のみ)もあったが、修学旅行生や未成年者にとって、いつもは素通りしてしまう企画展会場も、目に入ったキャラクターからとつきやすさを感じ、資料に見入るケースが増えたようであり、大多数の入館者にとっては好評であった。

また、期間中に実施されていた十数年ぶりの正殿の漆の塗り直しについても、「時代によるちがいの解説がよかった。建物もうるしで朱色というのはおどろいた。この企画展の説明を見ると、ぬりなおしもただ残念なことというだけではない目で見られますね。」、「うるし塗りの技工、何回も塗り重ねなければ完成しない大変さに感心しました」、「首里城の「朱」の秘密がわかり興味深かった。」、「朱の塗りの復元の現場に立ち会えて幸運でした。」、「朱の下に黒ぬりがあったことにびっくりしました。作業される方も大変でしょうね。頑張ってください。」、「外へきをうるしぬりしていることを初めて知り、首里城についてまた深く学びたいと思いました。」(以上、第Ⅰ期より)などから、今回の企画展を開催するにあたり、目的の1つであった、「正殿の塗り直しを理解してもらう」という目標は達成できたものと思われる。

他にも、「第1回目を逃してしまいとても残念に思っています。続けて見にこれるよう頑張ります。」「I」も見ました。数は、少ないけど、見ごたえがありました。シリーズものは、ステキです。次も楽しみにしています。」(以上、第Ⅱ期より)、「年間パスポートを申込みし、ぜひ又次回もきます。」「もっと早くこの企画を知っていたら年間パスポートを買って全てのものを見たかったです。」(以上、第Ⅲ期より)、「何度も来ようと思えるので、ぜひ続けてほしいです。次回もまた東京から見に来ます。見逃した回が見れるとうれしいです。」(第Ⅳ期より)などから、同じテーマを元にした連続企画展は好評で、1枚のポスター(チラシ)でシリーズの内容や時期も情報提供されている事から、自然と告知もされ、リピーター率の上昇に繋がっていくと思うので、今後もシリーズ企画展の開催は継続していきたい。また、「大阪でもやってください。」(第Ⅰ期より)、「北海道でかいさいして下さい。」「器も美しく、とても見るのが楽しかった。各地でも展示会をしてほしい。」「このような企画をとおして、琉球の歴史を「うるし」に限らず、是非多くの人にその価値の高さを知らせてほしい。」(以上、第Ⅱ期より)、「ぜひ地方開催を！茨城で。」「横浜でもやってほしい。」「沖縄文化をもっと知る為関西でも企画展して下さい。」「復元するのに、とても時間がかかったことですね。そのご苦労をお察しします。このような企画展をぜひ県外でやって頂けたらありがたいです。」(以上、第Ⅲ期より)などの声もあり、当財団所蔵資料の展示公開を中心とした琉球王国の歴史文化に関する移動巡回展等の取り組みが、首里城公園の誘客に有効である可能性があるものと思われる。

まとめ

今回の企画展で、来館者の69.0%の大多数が「ここに来て知った」と答えている。前回企画展「幕末の琉球」における同じ質問が87.65%であったため、改善しているとはいえる。しかし、全体的に告知不足であったことは否めず、今後の課題と思われる。企画展の内容自体は、全体で91.1%の方が内容に満足して頂いており、見学後の満足度が高いことから、広告知を充実させ、まずは企画展開催の認知を高める必要があるものと思われる。

史跡の固定的なイメージとして、「何時来ても同じ」という固定概念があるものと思われるため、その固定概念を打破しない限り、さらなる集客は厳しいように思う。このため「今回を逃すと、次回沖縄で何時見られるかわからない」といった企画や、「首里城へ行かないと損をする」とまではいかずとも、何らかの満足感がある企画の充実を検討しながら、効果的な告知方法のさらなる検討を行っていく必要があると思われる。

また、おおむね良好であった白澤、神猫、里之子の少年等の解説キャラクターを上手く活用しつつ、わかりやすい展示に努め、一度見学した入館者に印象が残る解説の工夫も肝要であると考えます。

今後とも、周知・広報の強化を行っていくとともに、アンケートの意見・感想にあった事を踏まえ、満足しただけのような企画展の開催を行い、「首里城はいつでも違う企画展示を行っている」といったイメージがつくよう、これからも努めていきたい。

・告知チラシ



首里城公園企画展

うるしの王国 琉球

～うるしが語る琉球・首里城の歴史～

琉球王国は、首里城での儀式・備礼に使用する道具や、中国皇帝や徳川将軍等への献上品として漆器の製作を行っていました。神へ捧げる備礼用の漆器、国と国との架け橋となった献上用の漆器、様々な使われ方をされた琉球漆器をぜひご覧になって下さい。

企画展の内容

I うるしの王国 琉球 ～神に捧げたうるしのうつわ～
琉球王国時代に儀式・備礼に使われた「うるしのうつわ」を紹介します。また、その漆器の使われ方を紹介するため、一緒に使用されていた祭祀道具もあわせて展示します。

II うるしの王国 琉球 ～ごちそうを盛るうるしのうつわ～
琉球王国時代に料理を盛るために作られた菓^{カヌヘ}、酒^{サカベ}などの「うるしのうつわ」の展示を通して、現代まで続く琉球料理の「うつわ」のルーツを紹介します。

III うるしの王国 琉球 ～献上された琉球漆器～
琉球王国時代に漆器として作られた「うるし」の工芸品の紹介を復元された琉球漆器の展示を通して行います。

IV うるしの王国 琉球 ～青貝の輝き～
琉球王国時代に中国皇帝や徳川将軍、大名に献上された美しい^{アヲシ}の漆器の展示を通して、琉球漆器の技術の高さを紹介します。

会場までのご案内

1. 徒歩にて、首里城公園入口バス停にて下車。徒歩約5分。
2. センター（P1/P2） 首里城公園敷地にて下車。徒歩約15分。
3. 車・バス利用時 首里城公園、首里城にて下車。徒歩約5分。
3. 地図※：首里城公園地下駐車場（P1/P2）をご利用下さい。

お問い合わせ
首里城公園管理センター
TEL.098-886-2020

※P1/P2は「首里城公園」にあり、首里城公園内にはありません。地図は「首里城公園」の地図を参照してください。